

長木川源流のブナ植林地「テロロの森（ふれあいの森）」 にて観察学習会が行われました。

令和元年 10 月 20 日（土）、大館自然の会主催による「テロロの森観察学習会」が大館市の長木川源流部となる大茂内沢国有林内（ふれあいの森）で行われ、会員、一般市民が参加しました。大館自然の会では、ふるさとの豊かな自然環境を目指して、長木川源流域にブナを植え育てる事業を市民ボランティア活動により実施してきており、今年で 24 年目になります。当署は成長量調査など活動支援を行うため参加しています。



（観察学習会の様子）

この日は好天に恵まれて、参加者は、これまで植樹したブナなどの生育を調査したり、森林の様子を観察したり、下草刈りを行ったところですが、今回の活動では、ブナの樹高や太さを調査する方法を学ぶとともに、野鳥が飛び交ったり、いろいろな山の実がなっているさまを楽しみながら、自然環境の大切さを感じ取っていたようです。



（ブナの生育を調査）

大館自然の会は、当署とふれあいの森協定（3. 4 3 ha、名称「テロロの森」）を平成 1 2 年に締結し、ボランティアによる森林整備や小・中学生への環境学習を行っています。

※「テロロの森」とはテロロと鳴いていたアカショウビンが住みつくような、恵の森に成長するように願って名付けた愛称